地域医療は今･･･。私たちの医療環境を守るために

島根県内の中山間地域や石見部では年々医師不足が顕著となり、奥出雲病院も今年4月から常勤医師が現在の7名から5名体制となります。

これを受け、2月15日から2月26日までの日程で、町内9地区において「奥出雲病院タウンミーティング」が開かれ、地域医療の現状や奥出雲病院の今後の運営について話し合われました。その内容を要約してお知らせします。

◆島根県内の医師数

県内の病院（島根大学医学部付属病院を除く）の常勤医師数

	松江	**雲南**	出雲	大田	浜田	益田	隠岐	計
H18	316	46	179	50	101	84	21	797
H19	320	43	183	49	102	73	20	790
H20	316	35	189	50	103	67	18	778
H21	326	33	187	47	100	67	18	778
H18→H19差引	4	▲ 3	4	▲1	1	▲11	▲1	▲ 7
H19→H20差引	▲4	▲ 8	6	1	1	▲ 6	▲2	▲12
H20→H21差引	10	▲ 2	▲2	▲3	▲3	0	0	0
H18→H21差引	10	▲13	8	▲3	▲1	▲17	▲3	▲19

（島根県「勤務医師実態調査（毎年10月1日現在）」より

人口10万人あたりの医師数の全国平均は225人。島根県では264人（H20年12月現在）と全国10位となっています。

一見医師が多くいるように見えますが、実態は、左表のとおり、松江、出雲圏に集中し、県西部や中山間地域の医師が減り続け、地域医療の崩壊が懸念されています。

◆奥出雲病院　常勤医師の推移

	平成14年10月	平成19年4月～	平成20年4月～	平成21年4月～	平成22年4月～
内　　科	4	3	2	2	1
外　　科	3	3	3	3	2
整形外科	1	1	2	1	1
産婦人科	1	1	1	1	1
小 児 科	1	1			
歯　　科	1	1	1		
合　　計	11	10	9	7	5

奥出雲病院の状況を見ると、平成14年10月に11人いた常勤医師が、今年度で7人に、そして平成22年4月からは5人体制となります。

このため、4月からの体制を想定した5人体制でのシュミレーションが3月から始まりました。

【奥出雲病院からのお知らせ】

○日曜、祝日は町内の医療機関が、交代在宅当番医制をとっています。
　ジョーホー奥出雲の文字放送で、当番医療機関が分かりますので、急患時の参考にして下さい。

○奥出雲病院では、大学から医師の派遣を受け、専門外来や非常勤診療科の診療を実施しています。お問合せの上、ご利用下さい。

○診療時間外の救急診療は、専門外の医師が行なうことが多く、充分な検査ができないことがあります。より適切な医療機関をご案内することもありますので、まずはお電話でお問合せ下さい。

■お知り合いの医師・薬剤師・看護師をご紹介下さい　奥出雲病院 有線：31-5700 電話：54-1122

「しまねナイスパートナー」に長谷川　昭さん・公子さん（下阿井）

地域づくり活動を積極的に取り組む夫婦をたたえる、「第５回しまねナイスパートナー」の選定状交付式が２月１６日、県庁知事室で行われ、長谷川昭さん・公子さんご夫妻（県内７組が選定）に、溝口知事から選定状と記念品が贈られました。

昭さんは「農事組合法人ほり」の事務局長として、仁多米の振興や中山間地における営農、集落活動推進の中心となって活躍されています。

また、公子さんは現在、児童館勤務のかたわら、学校と連携した子どもたちの健全育成活動に尽力。さらに、食生活改善推進委員として食育活動や週１回のセラバンド体操の指導など、町の健康増進にも貢献されています。

ー 今なぜ医師不足？実は全体の医師数は増えている ー

医師不足と言われていますが、実は全国では医師の数は増えています。実際には病院の勤務医が不足しているのです。この原因のひとつとして、平成１６年から始まった**初期臨床研修制度**があげられます。

この制度ができる前までは、研修医は大学の医学部に所属し、附属病院で研修を受けることがほとんどでした。そして、大学から地方の病院へ医師を派遣することができ、これが地域の医療をも守る役割を果たしていました。

しかし新しい制度では、研修医と病院の意向が合えば、研修医が自分で研修先の病院を選ぶことができるようになりました。このため、研修医は、医療環境が良く、より高度な技術を学べ、収入の多い病院、地方よりも都会の病院に集中するようになりました。

このため、研修医を多く抱えることができなくなった大学病院が人手確保のために、派遣した病院から医師の引上げをはじめ、中山間地域では医師不足が進行しました。

若手の医師がいなくなった地方の病院では、中堅以上の医師に多くの負担がのしかかってきます。

不規則な勤務条件に加え、過重労働により、さらに医師が退職するなどの悪循環となっています。

また、医療の高度化、専門分化が進み、１人あたりの医師の守備範囲が狭くなったことも原因のひとつとされています。

医師不足による地域医療の崩壊が進む中、私たちの地域も例外ではなく、むしろ深刻な状況を突きつけられています。地域医療を守るために私たちは今、何をすれば良いのでしょうか？

地域医療を守るためにみんなができる取り組み

可能な限り病院の外来、診療所が開設している時間内に受診する

○病院の救急外来では平日夜間、土日・休日の急な病気の悪化やけがへの対応をしなければいけません。

○病気やけがを我慢しつづけてから救急を受診しても、結局、後日昼間に病院外来や診療所を受診しなくてはいけません。

こどもの急な病気に困ったら小児救急電話相談へ･･･

島根県小児救急電話相談
番号はコチラ　＃8000

通話できない場合は
ＴＥＬ03－3478－1060
平　日　19:00～23:00
土・日・祝日　9:00～23:00

○小児科医師、看護師、保健師から症状に応じた適切な対処の仕方や受診へのアドバイスが受けられます。

○「こどもが急に熱を出してしまった。でも、どうしたらいいか分からない。」、「すぐに病院に連れて行った方がいいのか、家でしばらく様子をみようか。どうしよう。」こんなときはご相談を。

スポーツ振興に貢献　島根県スポーツ功労者表彰

全国規模の大会で優勝、準優勝した個人、団体に贈られる島根県スポーツ功労者表彰の授与式が、３月１５日ホテル宍道湖で開かれ、春の全国高校選抜ホッケー大会で２連覇した横田高校女子ホッケー部、また秋の国民体育大会で同校初のアベック優勝を果たした同女子ホッケー部と男子ホッケー部に表彰状と記念品が贈られました。

また、昨年１１月に開催された、第１０回全日本都道府県対抗１１人制ホッケー選手権大会で準優勝した、仁多、横田両中学から選抜された１５人も表彰を受けました。

溝口知事からは「皆さんの奮闘は県民に感動を与えた。今後も精進し、県のスポーツ振興に尽力してほしい」と激励の言葉がありました。